

# Hip Joint news

(公財)日本股関節研究振興財団会報

URL <http://www.kokansetu.or.jp>

E-mail [info@kokansetu.or.jp](mailto:info@kokansetu.or.jp)

創刊号 平成 26 年 1 月

発行 公益財団法人  
日本股関節研究振興財団  
〒154-0011

東京都世田谷区上馬 1-13-11

電話 03-3421-6552

FAX 03-3421-6716

## 創刊号のごあいさつ

公益財団法人日本股関節研究振興財団

理事長

別府 諸兄



この度は、「HIP JOINT NEWS」の発行にあたり当財団のご報告を兼ねてご挨拶させていただきます。

当財団は昭和六十二年に創設以来、二十六年間にわたり

- ① 股関節に関する研究・健康寿命の延伸研究の助成事業
- ② 研究助成を受けた研究報告書作成事業
- ③ 股関節に関する普及啓発事業
- ④ 股関節市民フォーラム開催事業
- ⑤ 股関節研究セミナー開催事業
- ⑥ 運動器の健康寿命延伸事業
- ⑦ 股関節に関する図書・映像作成事業

を行っております。

これからは「HIP JOINT NEWS」に財団の活動を掲載させて頂き、より皆様にご活用いただける財団として運営していきたいと思っております。当財団は、国の公益法人改革に際し、最も厳しい法人格である公益財団法人を目指しました。そして、長期にわたる審査を通り、公益財団法人を獲得いたしました。

これは、当財団設立骨子とこれまでの活動が認められたもので、盤石な資金に支えられているとは言いがたい状況では珍しいことであります。

また、臨床に直結した運動器(骨・関節・筋肉・神経等)の財団は当財団だけで、運動器の健康、治療さらには国民の健康を推進するためには、不可欠な財団と認められることだと自負しております。

しかしながら、一般的に、運動器、特に股関節は運動の要で、他の運動器の部位に大きな影響を与えるという認識が低く、当財団の認知度が低迷しております。

昨年、当財団を設立した伊丹康人名誉理事長が白寿を迎えました。名誉理事長現役時から、この二十六年間に延べ百二十人の研究者におよそ一億四千万円の助成を行い、多くの研究者を支援してまいりました。研究には多大の費用がかかります。そして、近年股関節症の治療は大きく進歩しました。財団もその進歩の縁の下での力持ちの一部になっていくと確信したいと思えます。

また、公益社団法人日本整形外科学会

が推進している新国民病であるロコモティブシンドロームに対応した運動器の健康寿命延伸事業を発信し、国民の健康寿命を運動器から実践活動も含め積極的にアプローチしています。

しかしながら、設立当時から問題であった財政面が深刻な状況に陥っております。事務作業等財団運営の経費節減には様々な努力をいたしております。そして、今後もさらに多くの股関節研究者への助成、支援の手を緩めるつもりはありません。よって法人会員による財団へのご寄附、関連企業からのご寄附などをさらにお願いをしなければなりません。昨年末には受益者負担として、「MONTHLY 股関節らくらく募金」を開始しました。股関節とはどのような働きをする部位か、また股関節症で困難な生活をなさっている方々への支援を深めるためにも、資金面での多くのご支援が必要であります。

「HIP JOINT NEWS」の発行にあたるご挨拶には不適當であったかもしれません。しかしながら、当財団が弱体することは、股関節に関する研究、啓発活動、股関節症の方々への支援、健康寿命への活動が後退することでありませぬ。どうぞ、皆様方の温かいご支援を賜りまして、私どもは、これからも真摯に着実に当財団事業を推進してまいりたいと願っております。今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

# 平成25年度 股関節助成金 受賞者決定

企業様からのご寄附と皆様からの「股関節らくらく募金」は、  
下記の助成金に使用されました。  
温かいご支援に、感謝いたします。



平成 25 年度股関節助成金は、応募者 20 名に対し厳正な審査の結果、下記の 4 人に決定され、平成 25 年 11 月 30 日、広島市民文化交流会館にて交付式が行われました。

## 研究課題と交付者名簿

「人工股関節における至適軟部組織緊張バランスを指標としたインプラント設置手技の確立」

100万円

九州厚生年金病院 藤井 政徳氏

「自動定量システムを用いた変形性股関節症の早期診断法の確立」

100万円

東京大学 村木 重之氏

「相対的筋肉量低下による大腿骨近位部骨折リスクの検討」

100万円

慶應義塾大学 金治 有彦氏

「股関節不安定性の評価法の確立に関する研究」

70万円

広島大学 森 亮 氏

## 第24回 股関節研究セミナー 開催

平成 25 年 11 月 30 日に広島市民文化交流会館にて、第 24 回股関節研究セミナーが開催され、平成 22 年度研究助成金による下記の 4 件の研究成果報告が行われました。それぞれ、股関節研究にとって大変有意義な研究で、さらなる期待が持てる内容となりました。セミナー参加者は約 40 名、熱心な質疑応答が行われました。

報告 1 「早期の骨誘導効果のある新しい技術の比較:

GRAPE Technology とアルカリ加熱処理の骨誘導能の比較」

旭川医科大学 谷野 弘昌氏、西田恭博氏(共同研究者)

報告 2 「免疫組織学的手法を用いた変形性股関節症における疼痛機序の解明」

千葉大学 中村 順一氏

報告 3 「MDCTを用いた変形性股関節症の骨梁構造解析」

長崎大学 千葉 恒氏

報告 4 「人工関節(股および膝)の耐用性と安全性評価のための全国的登録体制の確立」

京都大学 秋山 治彦氏



西田恭博先生



中村順一先生



千葉 恒先生



秋山治彦先生

# 股関節Q&A

Q 1

“手術をやめておきなさい”という先生と、手術を勧める先生がいらっしやいます。どう考えたらよいでしょうか？

A 1

股関節の疾患は、痛くてつらかったり、自由に日常生活をおくれなかつたりしますが、癌などと違って直接命に関わるものではありません。従って手術を絶対に受けなければならぬという“絶対”がないので意見が分かれるのです。

従って股関節の手術は、費用（手術を受けることで失うもの）対 効果（手術を受けることで得るもの）で考えることとなります。この場合費用とは、“時間・お金・乗り越えなければならぬ合併症のリスク・創が残ること”で生じるいわゆる古傷の問題”で、効果とは手術が順調な場合得られる“痛み”の緩和とそれによる日常生活の改善・跛行の解消に代表される美容面の改善”です。

ただ問題は、手術の効果ははっきりしているのですが、その手術の“侵襲”が計算しきれないことです。現在股関節で行われている90%以上の手術は人工関節手術ですが、人工関節はいわば“関節の入れ歯”ですから慌てることはありません。納得がいくまで、セカンドオペニオン、サードオペニオンと色々な医師の意見を聞いてから考えてください。

ちなみに筆者のところでは、年齢のことは一つの要素ですが、それよりも痛みが持続的になったり、立ち上がりや寝返りでいつも痛みが出るようになったりした場合や、日常生活の改善を患者さんが希望

された時に手術をお勧めすることになっています。

Q 2

最小侵襲手術(MIS)とは、どんな手術ですか？またメリットとデメリットがありますか？

A 2

手術は必ず傷跡が残りますので、そこに必ずデメリットが生じます。MISとは端的に言えば、手術の侵襲を小さくすることで、そのデメリットを減らすという考えです。

人工股関節手術では、近年手術手技が安定し、それまでの“正確な手術をする”という目標は既に達成されているという認識から、次の目標は“できるだけ小さい侵襲で手術を行おう”という流れが生じてきました。

ただ勿論小さな創で手術を行うものから、難易度は上がります。本当に小さな侵襲で正確な人工関節の設置が行われているのかという問いかけは繰り返し返さなければならぬでしょう。この問題は重要ですので、後日別項を立てて再度論議したいと思えます。

Q 3

高齢(八十一歳)ですが、股関節の手術をすることはできますか？

A 3

我が国は既に四人に一人が六十五歳以上となり、超高齢社会に突入しています。股関節手術を行っている年齢層も七十代が中心となっており、八十代だからといって一概に手術が不可能ということはありせん。

ただこれは一般論ですが、ある程度(高齢の方は、

高血圧・心臓病・高脂血症などの内科的疾患や鬱・認知症などの神経科的疾患を抱えておられることも多いのです。従って手術の前には慎重な術前検査を行う必要があります。

また別な意味で重要なのは患者さんとご家族の意欲の問題です。医療は、病気に対し、医療サイドと患者サイドが協力して対処するものであり、特に関節手術は術後のリハビリ訓練を患者さんが頑張ってくれないければ好結果を期待することはできません。

最近経験したのですが、術前検査で無症候性的心臓弁膜症の診断を受け、心臓手術を受けた後、人工関節再置換手術を受けられた方もおられました。この方は人工股関節術後二年目でカップが緩んで、歩くのが困難となっていました。どうしてももう一度外を歩けるようになりたいという強い希望をお持ちで、股関節手術のために、あえて心臓手術を受けられたのです。より良い人生を希求される意欲には頭の下がる思いでした。

現在は情報化時代で、探せば誰でも有用な情報を手に入れることができます。財団でも分かりやすい冊子を出版しておりますのでご利用いただけると幸いです。

江戸川病院慶友人人工関節センター長

泉田良一

# お知らせ

## ◎平成25年度 第12回市民フォーラムの開催

開催日時 平成26年3月29日(土)

開催場所 日石横浜ホール

横浜市桜木町1-1-8

※桜木町駅より徒歩4分

※みなとみらい駅より徒歩6分

「いつまでも元気で歩くために  
健康寿命と運動」

### 特別講演①

「変形性股関節症と運動」

座長 泉田良一氏

江戸川病院慶友人工関節センター長

講師 松原正明氏

(公財)日産厚生会玉川病院股関節センター長

### 特別講演②

「運動のさまざまな効果

「メタボ・ロコモ・認知症等」

座長 別府諸兄氏

聖マリアンナ医科大学整形外科科学講座代表教授

講師 小島光洋氏

(一財)宮城県成人病予防協会学術・研究開発室長

### 特別講演③

「効果てきめん、関節に優しい体操の勧め!」

講師 太藻ゆみこ氏

メデイカルフィットネス研究所代表

公益財団法人日本股関節研究振興財団の公式 WEB サイトが、より親しみやすくリニューアル!!

Facebook、Twitter、YouTube (現在工事中) からも情報を配信しております。



皆様からのご意見・ご感想・ご質問をメール、お手紙、FAXで受けております。

公益財団法人日本股関節研究振興財団

※ご連絡先は1ページ目をご参照ください。

## 役員名簿

理事長 別府諸兄 (聖マリナナ医科大学 教授)

専務理事 泉田良一 (江戸川病院 慶友人工関節センター長)

理事 瀧美敬 (昭和大学 藤が丘病院 教授)

飯田寛和 (関西医科大学 教授)

岩本幸英 (公益社団法人日本整形外科学会 理事長・九州大学大学院 教授)

大久保康一 (藤崎病院 副院長・整形外科部長)

清家輝文 (編集工房ソシエタス 代表)

高野紀美 (NPO 法人のぞみ会 理事長)

帖佐悦男 (宮崎大学 教授)

富森浩二 (帝人ファーマ(株) 在宅医療営業企画部長)

内藤正俊 (福岡大学 教授)

樋口富士男 (久留米大学医療センター 病院長)

安永裕司 (広島大学 教授)

東郷良尚 (公益財団法人日本ユニセフ 副会長)

監事 下西惇夫 (元帝人(株) 事業管理部長)

評議員 浅野敏雄 (旭化成ファーマ株式会社 代表取締役社長)

石井千恵 (清心会藤沢病院 企画調査室長)

大谷卓也 (東京慈恵会医科大学 准教授)

大野誠 (日本体育大学大学院 教授)

阪本桂造 (西蒲田整形外科 院長)

一青勝雄 (前順天堂大学浦安病院整形外科 教授)

谷真人 (日比谷見附法律事務所 弁護士)

富田直秀 (京都大学 教授)

別府裕美子 (メデイカルフィットネス研究所 代表)

本間生夫 (昭和大学 教授)

間島直彦 (愛媛大学 特任講師)

米倉芳枝 (滋賀天産物研究所 監査役)

(敬称略・五十音順)